

同時 進行
QC
サークル

大成ファイネケミカル(千葉県旭市、稻生豊人社長、0479・64・2077)

は、溶液型のアクリル樹脂メーカ。オーダーメイドで樹脂を設計し、顧客の試作開発から量産品の生産立ち上げまでを支援している。アクリル樹脂の設計では親会社の大成

大成ファイ
ンケミカル ①

化工(東京都葛飾区)が始めた時から数えて50年の歴史を持つ。長年の蓄積に裏付けられた対応力が武器だ。

旭市の本社工場には40人が勤務。4班が12時間交代で勤務する体制で、各班のリーダーが現場の指揮を執る。「経営は個の創造力とチームの行動力で決まる」(稲生豊人社

現場の成果、経営に直結

生産性改善、5年で目標達成



勉強会でも利益を意識した鋭い質問が飛び
……
長)との信念の下、知恵を絞り、製造現場を絶えず変化させている。
2005年、製造現場

で会社が想定する利益増加分の10%を稼ごうという目標を掲げた。生産性の改善や製品の付加価値向上、コスト削減など、現場の活動の成果を利益という目に見える形で提示。成果は賞与にも反映するようになった。

中小企業の製造現場で改善提案を求めても、最初から積極的に声が上がるといえることはまずない。そこで稲生社長は「現場の不平不満でもなんでも、すべての声に同じ立場で耳を傾けた」と言う。上からの押しつけではなく、目標に対する全社的な合意形成を地道に進めた結果、この5年間でほぼ目標を達成。11年度からは目標を20%に引き上げる計画だ。

(火曜日に掲載)